

人間形成の歩み



川音朔郎

私は、終戦後間もなく教員になり、四十年近くの教員生活を平々凡々と過してしまって、後悔ばかりが残っていますが、ただ満足していることと言えば「学校がとても好きだった」「授業を大切にしてきた」ということぐらいいです。近ごろは、生徒の授業無視が多く「どうすれば…」と苦悶しながら昔のよき時代を懐かしんでいる昨今です。

室にし、冬など寒さをしのぐために藁を敷いて授業をしたこともありましたが、生徒と教師のふれあいには厚い信頼感があり、温かく、親しみがありますが、「このころになると時代の流れはいかんともし難く学校はその機能を十分に發揮できず、学校本来の姿である「勉強する場、人間形成の場」というよりは、社交の場レジャーの場と変わってきたような気がします。

× × ×

その後、再び高校に戻った訳ですが、このころになると時代の流れはいかんともし難く学校はその機能を十分に発揮できず、学校本来の姿である「勉強する場、人間形成の場」というよりは、社交の場レジャーの場と変わってきました。

進んで部活動に参加し、人間形成の場としても部活動を大事にして頂きました

と思ひ半ばにして挫折し、教職を去つて行つた先生が身近にいるだけに痛切に感じています。

しかし、教師離れの多い現在でも部活動している生徒は、顧問の先生には全面的に信頼を寄せ、信服しているようですね。

当時の日本は、経済的には全く混乱の時期で、今の恵まれた時代の人々にはとても想像出来ないような時代でした。日々の生活にもこと欠くような状態でしたから、学校生活も全くみじめなもので、更紙に印刷されたものを各人でとじた教科書を使い、作業場を教

室にし、冬など寒さをしのぐために藁を敷いて授業をしたこともありました

が、生徒と教師のふれあいには厚い信頼感があり、温かく、親しみがありますが、「このころになると時代の流れはいかんともし難く学校はその機能を十分に発揮できず、学校本来の姿である「勉強する場、人間形成の場」というよりは、社交の場レジャーの場と変わってきたような気がします。